

|           |  |
|-----------|--|
| 氏 名       | たかはし かんたろう<br>高橋 環太郎   |
| 所 属       | 都市環境科学研究科 都市環境科学専攻 観光科学域   |
| 学 位 の 種 類 | 博士（観光科学）   |
| 学 位 記 番 号 | 都市環境博 第 262 号  |
| 学位授与の日付   | 平成 31 年 3 月 25 日   |
| 課程・論文の別   | 学位規則第 4 条第 1 項該当   |
| 学位論文題名    | The Study of Tourism Impact by Socioeconomic Nexus on<br>Small Islands in Pacific Region for Possibility of<br>Sustainable Development<br>(太平洋の島嶼地域における社会経済と観光需要の関係および<br>その持続的発展の可能性に関する研究) |
| 論文審査委員    | 主査 教 授 菊池 俊夫<br>委員 准教授 大澤 剛士<br>委員 准教授 日原 勝也   |

### 【論文の内容の要旨】

本研究は、島嶼地域を取り巻く社会経済的な特徴が国際観光の需要に及ぼす影響とそれによる観光需要の新たな可能性について考察することを目的としている。島嶼地域は狭小性、隔絶性、環海性といった地理的な特徴により内需による市場拡大が先進国と比べて難しいとされている。そのため、貿易による海外市場との取引が多く、島嶼地域において重要な経済活動になっている。本研究で取り上げた太平洋の島嶼地域も海外市場との取引が社会経済的に重要な役割を果たしている。特に、観光産業は多くの島嶼地域において、主要な産業として位置づけられている。一方で、輸出産業としての観光に依存した経済構造による弊害や経済発展の限界といった問題がある。観光産業が主要となりやすい島嶼地域においても国際観光に依存する傾向は高い。しかし、島嶼地域の経済構造上、国内市場のみの経済発展には限界がある。また、海外からの観光客による観光財やサービスに対する需要と地域経済はすでに密接な関係にある。以上を踏まえ、本研究は島外市場との関係に着目した分析を行うことにより、観光需要と地域経済の持続可能性について考察することが必要だと考えた。

本研究の第 1 の分析では、観光産業の発展段階の異なる 2 地域を取り上げ、国際観光需要の依存傾向の違いについて比較を行う。従来の経済学的な研究では単一地域におけるインバウンドによる観光の財・サービスに対する需要の分析に重きを置いている。しかし、観光財およびサービスの需要に対する影響は地域によって異なっている。それにもかかわ

らず、観光需要の影響について地域性の違いによる観点からの考察が不足している。本研究の問題意識として、相対的な地域比較を行うことにより、財・サービスの需要の地域的な差異を見出すことが重要であった。

第 2 の分析では、島外に住む移民による観光需要の影響について推計を行う。近年の研究では VFR「親戚および友人訪問(Visiting Friends and Relatives)」による観光需要と海外に住む移民との関係が注目されている。VFR は主に自国から移住した人びとによって喚起される観光需要のひとつである。太平洋の島嶼地域における社会的な特徴のひとつは島から先進国へ移住した人びとと島内コミュニティとの関係が強いことである。先行研究では、島外地域に住む移民と島内地域との関連性について海外送金と密接に関係していることが示されている。一方、観光需要と移民の関係は、VFR を中心に先進国において近年研究が進められている。しかし、太平洋の島嶼地域に着目した研究は少ない。本研究は、島嶼地域からの移民ストックと観光需要の関係を統計モデルにより推計をした。太平洋の島嶼地域では移民の歴史があり、出向地域での移住期間が長いことから、VFR のような目的で訪れる観光客も多いと予想できる。また、余暇目的の観光需要以外に着目することで、島嶼地域の市場において新たな財・サービスの提供につながることを期待できる。本研究は、多様な観光需要に着目することが島嶼地域の持続的発展の可能性を考えるために、重要な視点となると考えた。

本研究は地域性の異なる宗主国をもつ島嶼地域と、共通の社会経済的な課題をもつ太平洋の島嶼国家を分析の対象地域とした。分析の枠組みは貿易理論から派生した観光需要モデルを援用し、統計的な手法により行った。本研究の第 1 の分析では観光需要の地域的な違いを比較するため、仏領ポリネシアと米領サモアを対象とし、観光需要に影響する変数で構成される統計モデルを用いて分析を行った。仏領ポリネシアはリゾート島として、成熟した観光地として周知されている。一方、米領サモアは漁業および加工食品の輸出を主要産業としている地域である。近年は地震や津波による災害の影響により、観光産業が一次産業に代わる新しい産業として期待されている。推計を行った結果、経済構造が異なる 2 つの地域では同じ観光需要でも異なる傾向がみられた。仏領ポリネシアでは、所得や物価のような経済的な変数の影響が相対的に強くなる傾向を示していた。一次産業を主な経済活動としている米領サモアでは、経済変数の影響が相対的に低い値となっている一方、交通や宗主国との関係において仏領ポリネシアとの違いがみられた。

第 2 の分析では、太平洋地域にある 11 の島嶼国家を対象に島外移民と観光需要の関係を、観光需要モデルを援用して分析を行った。本研究において、対象とした島嶼地域は移民による影響が社会経済的に強い地域構造を有しているとされている。また、島嶼地域は観光産業が主要な産業もしくは新しい産業として期待されている地域でもある。統計モデルによる推計の結果、島外にいる移民ストックと島へのインバウンドの関係は統計的な有意な結果となった。また、分析結果から、太平洋の島嶼国家では VFR といった余暇目的の観光以外の観光需要が期待できるため、多くの島嶼国の観光政策において、島外にいる移民に

について考慮する必要があることが示された。

本研究の新たな知見は以下の 2 つである。ひとつは、地域間において国際観光の需要に対する影響の違いを統計的手法により明らかにしたことである。観光産業が発展途上の地域では宗主国との関係などの文化的歴史的な関係が成熟した地域に比べて強く影響していた。もうひとつは島外の移民と観光需要の関係性を明らかにしたことである。島外に住む移民と観光需要の関係を明らかにすることにより、余暇目的の観光需要に注目してきた島嶼地域において、VFR などの異なる来訪目的の需要に着目する必要性が示唆された。